

1 目指す学校像

児童生徒一人一人が主体的に活動し、自己を肯定的にとらえることができるよう個々のニーズに応じた教育ができるよう支援を行う。
 ○個々の児童生徒に対応することで治療中の児童生徒が登校を楽しみにする学校 ○保護者から信頼される学校
 ○医療関係者等と連携し協働できる学校 ○教職員が生き活きと仕事ができる学校

2 本年度の教育目標

一人一人のニーズに応じた教育を推進し、社会参加・自立できる人間の育成をする。

評価者
 ○児童生徒 16名中10名
 ○保護者 16名中10名
 ○病院関係 4名
 アンケート回答者 77枚配布中69名
 ○教職員 5名中5名

評価の基準
 A：設定した目標を十分達成できた。
 B：設定した目標に対し、ほぼ達成でき、次年度の課題が明確になった。
 C：設定した目標に対し、成果が不十分であり、課題が残った。
 D：設定した目標に対し、ほとんど達成

3 評価

項目	昨年度の課題	本年度の目標	目標達成のための手だて	自己評価	学校関係者評価	今後の課題		
1 授業に関する事	<p>○学校関係者からは、授業を参観したことがなく「わからない」「大学に戻ったばかりでわからない」の回答があり、全員に授業を見てもらうことの難しい課題や学校関係者が転勤等で変わるため、年間を通じてご理解をいただくための活動が必要となる。</p> <p>○教職員自身は、まだまだ力量不足な面を感じているため、授業づくりに向けて教材研究や授業展開等の研修に取り組む必要がある。</p>	<p>○学校関係者に授業について知ってもらう機会を作る。</p> <p>○個々の児童生徒に合わせた授業づくりをするための教材や教具の工夫を行う。</p> <p>○個々の児童生徒に合った授業を展開できるように教職員全員が研究授業と協議等を実施して研究の推進をする。</p> <p>○個々の児童生徒が病状を適切に理解し生活できる力を育てるため、自立活動及び全ての教科で研究を推進する。</p>	<p>○参観週間に授業を見てもらえるよう案内をする。</p> <p>○教材や教具の工夫を行うために、各種専門家と連携する。</p> <p>○教職員それぞれが自分自身の授業力向上のために教材研究や研究授業等に取り組む。</p> <p>○個々の児童生徒の病状を理解するために小児の疾患について研修会を実施する。</p>	<p>○参観週間に授業を見てもらえるよう案内をし、師長さんが参観に来てくれた。また、学校便りを作成し、各病棟で回覧をしてもらった。</p> <p>○iPadを授業に取り入れるための研修に取り組めた。</p> <p>○教職員による研究授業に取り組むことができた。その中で、教材の工夫、授業展開等について全員で考えることができ、改善に向けての話し合いもできた。</p> <p>○学部研究会では、個々の児童生徒の病状を理解するために小児の疾患について研修し、学習したことを日々の教育活動に活かすように心がけた。</p>	B	<p>質問1 わかりやすい教材であるか？ 児童生徒 「5」80%、 「4」10% 保護者 「5」70%、 「4」10% 教職員 「5」20%、 「4」60% 学校関係者「5」27.54%、「4」5.8%</p> <p>質問2 わかりやすい教え方であるか？ 児童生徒 「5」70%、 「4」10% 保護者 「5」70%、 「4」10% 教職員 「5」20% 「4」60% 学校関係者「5」23.19%、「4」8.07%</p> <p>○児童生徒や保護者からは、昨年度より10%下がったが、「分かりやすかった」や「子どもがそう言っていた」と一定の評価がされている。 ○教職員は、昨年度に比べおおむね評価できると数値に表れている。 ○学校関係者からは、児童生徒が満足そうなのでとの評価のある一方で実際に教えている場面を見たことがない等、分からないの回答が53%以上見られた。</p>	B	<p>○学校関係者からは、教えている場面を見たことがない等から「わからない」の回答があり、全員に授業を見てもらうことが難しいことや学校関係者が転勤等で変わるため、年間を通じてご理解をいただくための活動が必要となる。</p> <p>○教職員自身は、昨年度に比べて、授業づくりができたと考えているが、より良い授業に向けてICT機器を使用した授業展開等の研修に取り組む必要がある。</p>
2 児童・生徒指導に関する事	<p>○学校関係者からは、評価する声と「児童生徒に対して、あまりほめずに時間がかかったねとか言ったり、あまり笑顔じゃない人が数名いる。」のご意見もあり、児童生徒理解について今後も研修する必要がある。また、学校関係者に学校の教育活動についてのご理解をいただく活動が必要と考える。</p> <p>○分校に在籍する児童生徒は、常に変わることから、個々の児童生徒や保護者の状況に合わせて接していく必要があるため、今後も相談しやすいと感じてもらえるよう実践力を高めていく必要がある。</p>	<p>○児童生徒が病状を理解した生活習慣を身に付け、将来の職業について考える力を育むよう学校生活全般で指導、支援を行う。</p> <p>○スクールプランニング事業やゲストティチャー、ボランティア等を活用し、児童生徒が自分の将来について考えるきっかけをつくる。</p> <p>○児童生徒や保護者のこころに寄り添えるための教師の資質向上を図る。</p>	<p>○児童生徒が病状を理解した生活ができるようになるため、自立活動の時間の学習について研究をする。</p> <p>○児童生徒の情緒安定を図るために、外部講師による本の読み聞かせや音楽会等を実施しする。</p> <p>○スクールカウンセラー及び外部講師による病気の児童生徒への心理的ケアについての研修を実施する。</p>	<p>○個々の児童生徒の実態に合わせて自立活動の学習に取り組んだ。</p> <p>○児童生徒の情緒安定を図るために、外部講師による本の読み聞かせや音楽会等を実施しすることができた。</p> <p>○病気の児童生徒への心理的ケアについての研修は、講師にスクールカウンセラー及び外部講師を招き実施した。研修内容は、日々の教育活動に役立てるよう心掛けた。</p>	B	<p>質問3 相談しやすいか？ 児童生徒 「5」40%、 「4」20% 保護者 「5」70%、 「4」10% 教職員 「5」20% 「4」80% 学校関係者「5」11.6%、「4」17.39%</p> <p>質問4 理解してくれているか？ 児童生徒 「5」70%、 「4」20% 保護者 「5」70%、 「4」10% 教職員 「5」100% 学校関係者「5」15.94%、「4」15.94%</p> <p>○児童生徒、保護者からは、昨年度に比べ20~30%下がった部分もあるが、「困ったとき助けてくれた」や「相談に応じてアドバイスしてくれる」と一定の評価がされている。 ○教職員自身は、ややそう思うと全員が感じている。 ○学校関係者は、先生方がとても積極的に関わっていることを評価してくれている反面、分からないの回答が57%以上と多くある。</p>	B	<p>○学校関係者からは、評価する声と「教員の人のによって違うと感じる」のご意見もあり、児童生徒理解について教職員間の情報交換や研修する必要がある。また、学校関係者に学校の教育活動についてのご理解をいただく活動が必要と考える。</p> <p>○分校に在籍する児童生徒は、常に変わることから、個々の児童生徒や保護者の状況に合わせて接していく必要があるため、今後も相談しやすいと感じてもらえるよう実践力を高めていく研修等を継続する必要がある。</p>
3 学校運営に関する事	<p>○特別支援学校としてのセンター的機能を果たすために、研修会や講演会について、早い時期に計画し本校や南国市の小中学校に対して案内するよう取り組む必要がある。</p> <p>○前籍校や病院との連携については、児童生徒、保護者や学校関係者に一定の評価をいただいているが、在籍の児童生徒や学校関係者が常に変わることが予測されるので、ご理解いただく活動の取り組みを続けていく必要がある。</p>	<p>○特別支援学校としてのセンター的機能を充実させる。</p> <p>○病院、保護者、前籍校との連携を図り、学習の保障と円滑な前籍校復帰を図る。</p> <p>○学校関係者や保護者に分校が実施している病院や前籍校との連携を理解してもらえよう取り組みを知らせる。</p>	<p>○ホームページで研修等の案内の情報を発信していく。</p> <p>○市町村の教育委員会や小中学校からの要請に応じて教育相談等の対応をしていく</p> <p>○医教連絡協議会や医教連絡会を継続し、必要に応じて病院内の各分野と連携した会を実施する。</p> <p>○前籍校との連携を密にしてい中で、交流及び共同学習等、必要に応じて計画的に実施する。</p>	<p>○専門性の向上を目指した研修会に本校や関係の小中学校の担任及び養護教諭等が参加しての研修会を実施できた。</p> <p>○南国市の教育委員会からの要請で小中学校の教育相談等に対応することができた。</p> <p>○病院関係者の協力により医教連絡協議会や医教連絡会を継続して実施することができたことから、児童生徒の実態把握に繋がりが、学習活動に活かすことができた。</p> <p>○居住地校交流・支援会議等必要に応じて開催し、前籍校との交流学習や退院後に安全な学校生活がおくれるよう取り組むことができた。</p>	A	<p>質問5 交流教育ができていくか？ 児童生徒 「5」70%、 「4」30% 保護者 「5」70%、 「4」10% 教職員 「5」40%、 「4」60% 学校関係者「5」27.54%、「4」17.39%</p> <p>質問5 病院と連携しているか？ 児童生徒 「5」80%、 「4」20% 保護者 「5」70%、 「4」10% 教職員 「5」40%、 「4」60% 学校関係者「5」36.68%、「4」13.04%</p> <p>○交流教育や病院との連携は、児童生徒、保護者と学校関係者から、一定の評価が得られた。</p>	A	<p>○研修会や講演会については、本年度と同様に早い時期に計画し本校や南国市の小中学校に対して案内するよう取り組む。</p> <p>○前籍校や病院との連携については、児童生徒、保護者や学校関係者に一定の評価をいただいているが、在籍の児童生徒や学校関係者が常に変わることが予測されるので、ご理解いただく活動の取組を続けていく必要がある。</p>